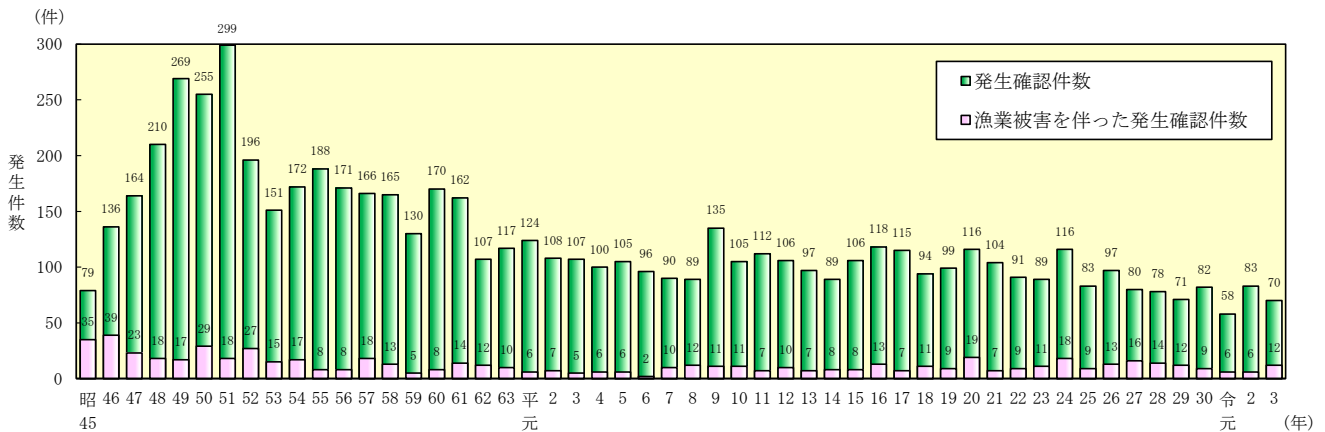


5 赤潮の発生状況

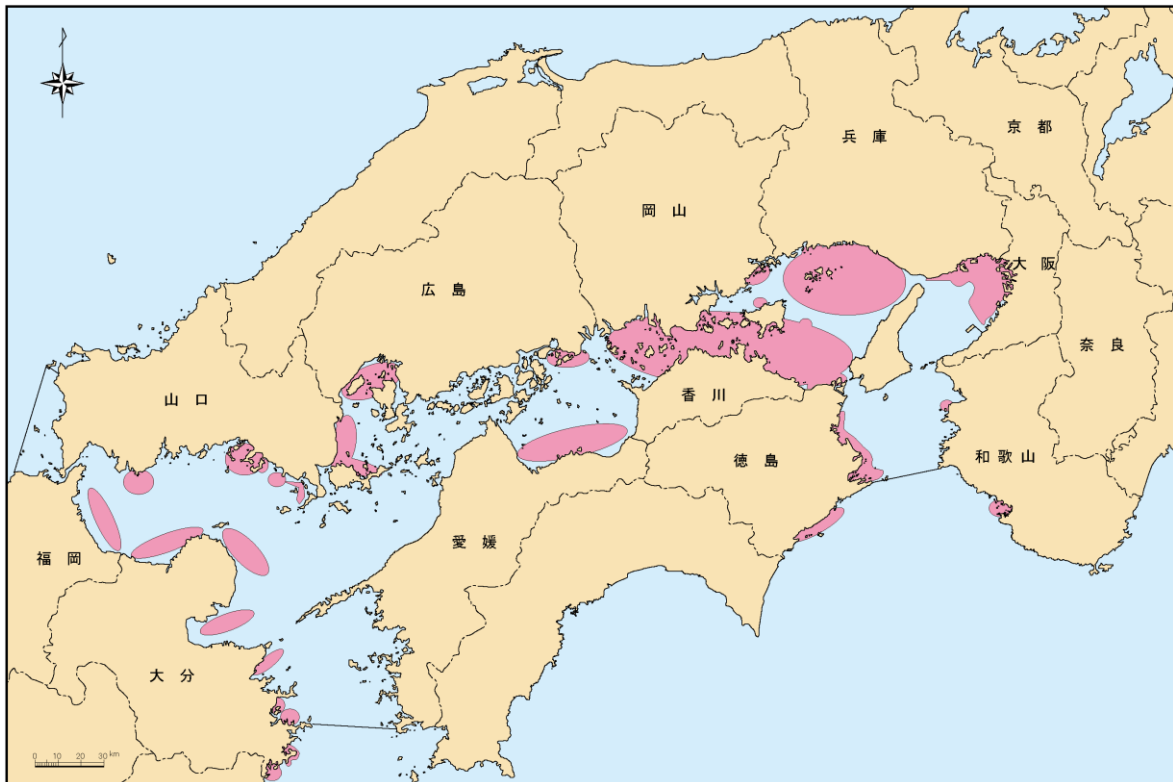
瀬戸内海における赤潮の発生状況を見ると、昭和51年(299件)まで年々増加の傾向にあったが、それ以降は減少している。しかし、現在なお毎年100件前後の赤潮の発生が確認されており、令和3年には70件の発生が確認された。赤潮の発生実件数と赤潮発生海域を図5-1、図5-2に示す。昭和35年から令和2年までの赤潮発生海域を図5-4に示す。

赤潮の発生に伴う漁業被害について、播磨灘では昭和47年7月(養殖ハマチ1,400万尾へい死、被害金額71億円)、52年8月(養殖ハマチ330万尾へい死、被害金額30億円)、53年7月(養殖ハマチ280万尾へい死、被害金額33億円)、57年8月(養殖ハマチ38万尾へい死、被害金額8億円)及び62年8月(養殖ハマチ135万尾へい死、被害金額25億円)に、安芸灘を中心とした海域では平成10年8月(養殖マガキ8,518万枚へい死、被害金額39億円)に大規模な漁業被害が発生した。



注) 実件数は、複数の灘及び月にまたがるものを1件として計上した値である。
出典:「瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所)

図5-1 赤潮の発生実件数



出典:「瀬戸内海の赤潮」(水産庁瀬戸内海漁業調整事務所、令和4年5月)

図5-2 赤潮発生海域(令和3年)